

No.109

2019(令和1)年
11月1日
発行
浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
藤本使朗



死にむかって

進んでいるのではない

今をもらって生きているのだ

鈴木章子著「慈告知のあとで」より



国宝「飛雲閣」池の中で草むしりをしました 仏教壮年会念仏奉仕団

ヒダカくん・ひかりちゃんのお話

『御文章』のお話

その13

永原智行

出家発心の章

当流、親鸞聖人の一義は、あながちに出家発心の
かたちを本とせず、捨家棄欲のすがたを標せず、た
だ一念帰命の他力の信心を決定せしむるときは、さ
らに男女老少をえらばざるものなり。さればこの信
をえたる位を、『経』(大経・下)には「即得往生
住不退転」と説き、『釈』(論註・上)には「一念
発起入正定之聚」(意)ともいへり。これすなはち
不来迎の談、平生業成の義なり。

『和讃』(高僧和讃・九六)には、
「報土をねがふひと 外儀のすがたはことなりと 本
願名号信受して 寤寐にわすることなかれ」とい
へり。「外儀のすがた」といふは、在家・出家、男
子・女人をえらばざるころなり。

つぎに、「本願名号信受して寤寐にわすること
なかれ」といふは、かたちはいかやうなりといふと
も、また罪は十悪・五逆、謗法・闍提の輩なれども
回心懺悔してふかく、かかるあさましき機をすくひ
まします弥陀如来の本願なりと信知して、ふたごこ
ろなく如来をたのむころの、ねてもさめても憶念
の心つねにしてわすれざるを、本願たのむ決定心
をえたる信心の行人とはいふなり。

さてこのうへには、たとひ行住坐臥に称名すとも
弥陀如来の御恩を報じまうす念仏なりとおもふべき
なり。これを眞実信心をえたる決定往生の行者とは
申すなり。

あなかしこ、あなかしこ。
あつき日にながるるあせはなみだかな かきおく
ふでのあとぞをかしき 「文明三年七月十八日」
(4面に続く)

法話

ハサミムシの母親

「先生、これ何て言う虫？ ダンゴムシの足は、何本あるの？」

「園庭で遊んでいる子ども達に聞かれる。「？？」」答えられない。これではと思ひ、身近にいる虫について調べてみた。その中で、ハサミムシの生態に驚いた。ダンゴムシと同じように、石の下にいる昆虫だ。尾の先についた大きなハサミが特徴的である。

石をひっくり返すと驚いて逃げ惑うが、なかには逃げずに動かないハサミムシもいる。じつと動かさずハサミを振り上げて威嚇してくる。産んだ卵に身体を覆いかぶせるようにして、卵を守っている母親である。

ハサミムシは成虫で冬を越し、冬の終わりから春の初めに卵を産む。母親は卵にカビが生えないようにと一つひとつ順番にいてねいなめたり、空気にあてるために卵の位置を動かしたりと、丹念に世話をしている。

卵がかえるまでの間、母親は卵のそばを離れることはない。もちろん、母親はえさを口にしている時間もない。えさを獲ることもなく飲まず食わずで、ずっと卵の世話をし続けるのである。その期間は40日以上。長い場合は、卵がかえるまでに80日かかった観察もあるそうだ。そしてついに卵がかえる。しかし母親の仕事はこれで終わりではない。かえったばかりの幼虫は、獲物を獲ることができない。母親は空腹をかかえた小さな子ども達をのちを生かすために、自分の体を食べさせるのである。それも子ども達を慈しむかのように、腹の柔らかい部分を差し出すのだ。母親は動くこともなく、少しずつ少しずつ体を失ってゆく。その体は、子ども達の血となり肉となる。この子たちのためと、痛さに耐えしのぶ姿に母の愛情の深さを覚える。

仮令身止（けりようしんし）
諸苦毒中（しよくどくちゆう）
我行精進（がぎようしゆうじん）
忍終不悔（にんじゆうふけ）
「讚仏偈」の最後の四句。

俳優の高倉健さんの座右の銘であったと聞くが、阿彌陀さまが法蔵菩薩であったときのお言葉である。「たとえこの身が、どれほどの長きにわたって苦難の中に止まりましようとも、救いの仏となる修行は休むことなく、あらゆることに耐えしのびて、決して悔いることはありません」

この子のため、この子のためと、私一人にかかりはて私一人を救わんがために、この私を抱いてかかえてはかり知ることのできない年月をかけてのご身労があった。阿彌陀さまは、私の親さまである。ハサミムシの母親の姿の中に阿彌陀さまの慈愛のおこころを味わった。

（菅原）

報恩講の日程

11/3	覚性寺(吹井)
11/9~10	教専寺(阿戸) 西教寺(衣奈)
11/16	宝国寺(神谷)
11/17	光専寺(横浜) 莊嚴寺(方杭) 一行寺(比井)
11/20	円行寺(小浦)
11/23	専福寺(江ノ駒)
11/23~24	長覚寺・円照寺(比井)
11/24	念興寺(網代)
11/30~12/1	蓮専寺(里)
1/11~12	妙願寺(志賀)
1/18~19	即生寺(志賀)
1/25~26	善宗寺(志賀)

報恩講は浄土真宗で一番大切な法要です
お誘い合わせ、ぜひお参りしましょう



残暑の中で特別講座を受講しました

蓮専寺で夏安居特別講座が開催

9月6日(金)「和歌山夏安居特別講座」が由良町里の蓮専寺で開催されました。

講師は「行信両一念義」で、大阪教区の安方哲爾師にご講義いただきました。

宗祖親鸞聖人の主著であります『教行信証』の「行信」両巻に一念釈が施されています。そこに他力真宗の要をお聖教にお伺いいたしました。

当日は大阪・兵庫からも若い僧侶が集まり、熱心に聞き入っていました。息子も京都より帰り、同席しましたが「さっぱりわからん！」とこぼします。「無理もないな」と思いますが、僧侶がお聖教に向かい勉強する姿を見てほしいとの思いからです。講座が終了し、京都に帰る際「俺も勉強せんとあ・あ・あ」と言っていました。しかし良いご縁になったことでしょうか。

真宗僧侶は、親鸞聖人がお残し下さいました「お聖教」に一生向き合ってくださいました。他力真宗である「お念仏」がご相続されますように。

(岩崎法明)

シリーズ 「過疎問題を考える」

妙願寺 楠原晃紹

人口の過疎はいたしかたない事かも知れないが、信心の過疎だけはなんとしても進行させてはならないと思います。

介護支援専門員として、私は介護保険制度創設以前より福祉現場で過ごしてきました。最近つくづく思うのは、家族が介護するのが当たり前だった時代では、息子、嫁、娘などに「すまんのお」「おおきによ」と感謝の言葉が自然と出てきていたように思うのです。が、今はどうでしょうか。子や嫁に「世話をかけたくない」、「迷惑かけられない」と家族に気遣う場面が多いように思います。

介護サービス利用者の中には、家族と会話する時間より介護員さんと過ごすほうが長いとおっしゃる方がいてもおかしくありません。日常生活の全てを介護員がフォローできつこないのですが、介護サービスに頼るあまり、家族の絆が崩壊し始めてきていると感じているのは私だけかも知れませんが。

お寺のことで言うと、親の年回忌法要で家族に気を遣い、「子ども達は忙しいから夫婦だけでお参りさせていただきます。」と、大切なご法事に遠方の方はともかく、近隣や同居の親族さえ集まらないのは残念極まりないことでもあります。また、「世話ないから」という理由で、安易に家族葬を選んだり、葬送儀礼などが略式化されてきているのです。私はこのようなことが「信心の過疎化」だと思います。

今一度、仏縁を通して子や孫に伝えるべきことを考える必要があるように思います。

今年から和歌山教区担当「過疎対応支援員」として教区内の過疎の現状にふれ始めました。過疎対応支援員とは、過疎により寺院活動が困難な状況にある寺院の住職・寺族・ご門徒の皆さまが抱える諸問題についてお伺いしながら今後の寺院のあり方、存続の方途などを一緒に考え、寄り添った対応とお手伝いをする役割であります。

一言で言うならば、これまで過疎地の寺院の皆さまが抱えてこられた様々な問題を受け止めてきていただく窓口ができたということなんです。過疎対応支援員が配置されたからといって、今までの諸問題がすぐに解決するわけではありませんが、まずは、地域寺院の過疎の現状を把握しつつ、そこにある問題、課題をお伺いしながら宗派や教区、その他関係機関と連携して解決に向けて支援してゆきたいと思っております。

教区内のご住職・寺族・ご門徒のみならず、離郷された門信徒ならびに子弟の皆さまにも現状をご理解、ご協力賜り、これから寺院活動の活性化に向けてより良き過疎対応支援活動ができればすよう微力ながら尽力してゆきたいと思っております。

住職継職奉告法要が勤まります

11月17日(日)に由良町 光専寺で光専寺の北山憲昭住職の継職奉告法要が執り行われます。

当日は、報恩講、鐘樓修復、宗祖御誕生850年、立教開宗800年慶讃法要が併修され、稚児行列や音楽法要で厳粛かつ盛大にお勤まりされる予定です。

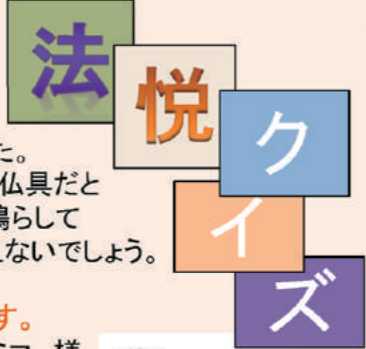


Q、江戸時代、浄土真宗が禁じられたところはどこでしょう？

- 次の①～③の中から一つ選んで番号を書いてください。
- ① 江戸(今の東京都)
 - ② 蝦夷(今の北海道)
 - ③ 薩摩(今の鹿児島県)

108号の正解は「② お勤めするときの合図」でした。
[解説]きんは、お勤めするときの合図として鳴らす仏具だと覚えておいてください。時間がないときにはきんを鳴らして短いお経とお念仏。回向句だけを上げて差し支えないでしょう。

- 正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。
- | | |
|-------------|-------------|
| 由良町 松下 光男 様 | 由良町 中崎エミコ 様 |
| 由良町 久保千代子 様 | 由良町 坊岡 和美 様 |
| 由良町 坂田 博美 様 | 由良町 宮本みさほ 様 |
| 由良町 中口 沙紀 様 | 由良町 畑中 宏之 様 |
| 由良町 寺井 京子 様 | 御坊市 塩田 廣一 様 |



ホームページ、またはハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、紙面についてのご感想、ご意見等を明記の上、下記までお送り下さい。

〒649-1221
和歌山県日高郡日高町志賀2988
妙願寺内 日高組事務所 宛

☆正解者の中から抽選で10名の方に『粗品』を進呈します。

締切 2020年1月20日(必着)
発表は次号です

ヒダカくん・ひかりちゃんのお話 1面続き

◎現代語訳・大意

親鸞聖人み教えでは、ことさらに家を捨てて悟りを求める心を起すことが大切なのではありません。ただ一心に阿弥陀如来に帰命する他力の信心が定まるときには、老若男女の区別はないのです。

そして信心を得ている位を、経典には「即得往生住不退転」と説かれており、また論釈には「一念発起入正定之聚」と示されています。このことは、「臨終の来迎を期待するのではなく、平生において信心が定まるときに往生が定まった身になる」ということです。

親鸞聖人の『和讃』(高僧和讃・九六)には、「阿弥陀如来の浄土に往生しようと願う人は、在家か出家か、男か女かなどの違いに関わらず、またどのような重い罪をもつたものであっても、このようなあまさましいものをお救い下さる阿弥陀如来のご本願であると知らせていただき、二心なく如来に帰命して、寝てもさめても本願名号を心にたもちなさい」と示されています。そのような人を信心の人というのです。

信心が定まった後には、たとえどのようなときに念仏を称えても、仏恩報謝の念仏と思うべきです。そのような人を、真実信心を得て往生の定まった念仏者というのです。

ヒダカくん 南無阿弥陀仏は、知恵と慈悲をあらわしているんだよ。知恵は、すべての人を救うための根本であり、今回は置いておくけど、慈悲についてお話しするよ。

ひかりちゃん 慈悲というと、「お代官さま、お慈悲を」というあのお慈悲？

ヒダカ 時代劇の見過ぎやね。言葉としての慈悲は同じだけれど、今から仏さまのお慈悲をいうのに悪代官を出すのはよしてくれよ。

ひかり いいえ。あなたを見たらつい出たの。...

ヒダカ そうそう。お慈悲という言葉だけど「慈悲」とは「悲しみ」ということだね。仏様が悲しむの？

令和の時代最初の日高組主催「キッズサンガ」(子どものつどい)が7月27日、由良町吹井の覚性寺(笠崎教信住職)で開催され、児童37名、各教化団体関係者46名とともに、本堂・境内を舞台に思い出に残る一日を過ごさせていただきました。



お昼は、待ちに待ったカレーライス。みんなで「食事のことは」を唱和し、おかわりする子どももいました。午後からは、お仏壇の阪本さんのご協力でおい袋をつくりメモリアルウエートの社員によるマジックショーなど初めてお目見えする催しに、子ども達は目を輝かせて大喜び。最後はサックスフォンの伴奏で「恩徳讃」を参加者全員で合唱して終了しました。



仏典童話のDVDを鑑賞しました

優しかった母のことを思うと今でも悲しくなってしまうよ。しかし、仏教では、これを小悲といって、凡夫がとらわれによってでる悲しさということなんだ。ぼくはぼくの母のことを思って悲しくなるけれど、あらゆる人・あらゆる生き物の死を悲しむかといえど、そういうことはない。

京都南座で聲明公演

本願寺と天台宗の聲明(しようみょう)の公演が京都四条の南座で7月6日に行われました。

西本願寺からは浄土法事讀作法が披露され、導師に合わせ声の揃った聞き慣れた作法でした。

一方の天台宗(大原龜山流聲明)は聞き慣れない節(ふし)が多く新鮮な聲明でした。本願寺の聲明は、天台聲明を積極的に取り入れてきたとされています。聲明は幾度練習しても難しいので日頃から色々な作法のお勤めも繰り返すことが大切ですね。

(楠原)



お念珠づくり

蓮専寺

夏休み最後の夜の8月25日(日)、蓮専寺では「お念珠づくり」を開催いたしました。

若い方々を中心に中学生も参加し、ヒモ房6本編みに挑戦。まず、親玉に苦戦、そして房の6本編みが大変です。2時間かけてできあがったお念珠は綺麗な色合いを出し、手になじみます。

「買えばいいものを」と思いますが、自分で作ると大切に扱って修理もできます。お念珠は一番身近な仏具です。秋のお彼岸には自作のお念珠を持ってお参り下さいました。



門徒心得

「念仏禁止とかくれ念仏」

戦国時代から安土桃山時代にかけて浄土真宗の信仰が庶民に浸透し、本願寺教団は大きな勢力となりました。この本願寺教団に対し、為政者として脅威をいただいた大名は少なくありません。

慶長二年(1597)浄土真宗を禁じて藩政を安定させようとした藩があります。薩摩でこの禁制は明治九年(1876)まで約三百年間厳しく実施されました。

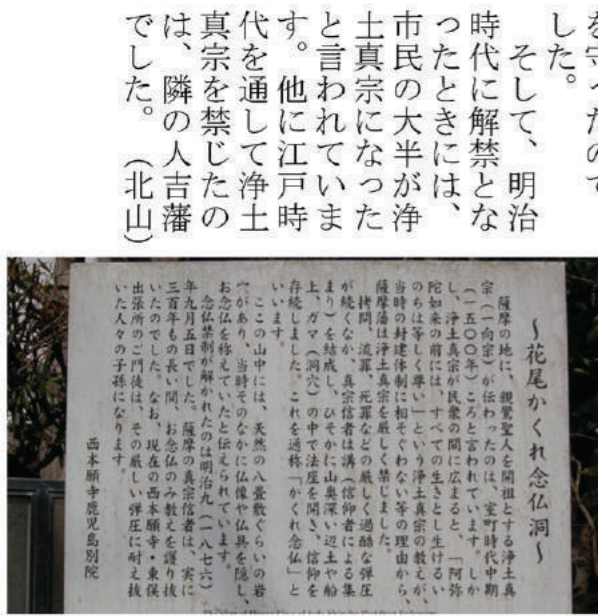
しかし禁制の間でも浄土真宗の教えは絶えることはありませんでした。権力の目を逃れてひそかに信仰され続けたのです。これを「かくれ念仏」と言います。住民組織である講を通して、山中の洞穴に集まって法座を開き、傘状の箱にご本尊を隠した「傘仏」や、まな板の中に本尊を隠した「まな板仏」、仏壇自体を隠した「隠し仏壇」など、さまざまな工夫をして自らの信仰を守ったのでした。

次世代と共に

キッズサンガ



自信作のおい袋、いい香り



念仏奉仕団で本山参拝



御影堂の床や畳をカラ拭き



日高組仏教壮年会連盟では、7月11日から12日の2日間、日高組仏教壮年会連盟結成30周年の記念大会としまして、西本願寺念仏奉仕団に仏社会長及び引率者を含む総勢21名が参加しました。

初日は開会式に引き続き、御影堂の外陣四一畳の畳拭きなどの清掃奉仕を行った後、書院の拝観、国宝「鴻の間」でのお抹茶とお菓子(松風)の接待、安穩殿で法話を聴聞させていただきました。

またその夜に開催しました30周年記念祝賀会では、和歌山教区教務所長仲尾信博師や本願寺参拝教化部長下間要信師を来賓としてお迎えし、結成30周年を機縁に仏法活動の推進に向け会員相互の一層の親睦を深めました。



国宝飛雲閣での清掃奉仕作業

2日目は、朝6時から始まる御影堂でのお晨朝に参拝し、その後は、ご門主さまとのご面接や記念撮影を行いました。この日は現在修復中の京都三名閣のひとつ、国宝「飛雲閣」の草引きや落ち葉掃除などの清掃奉仕を行い、2日間の日程を終えました。

また今回は、帰敬式を11名が受式され、浄土真宗の門徒として、仏教に帰依することを誓い、仏弟子として法名を授与されました。この2日間を通して親鸞聖人のみ教えを学ぶとともに、仏様のみ教えに出会う尊いご縁となりました。

今後このような活動が継続して行けるよう仏教壮年会活動を推進してまいります。



おあさじ(晨朝法要)のあと、おかみそり(帰敬式)を受式



懇親会では和やかな雰囲気でお話が弾みました

実践 日高組実践運動推進委員会

私たちのちかい・食事の言葉を 家族全員で唱和しましょう!

私たちのちかい

一 自分の殻に閉じこもることなく
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように

一 むさぼり、いかり、おろかさにならず
しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように

一 自分だけを大事にするのではなく
人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように

一 生かされていることに気づき
日々に精一杯つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように

食事のことば

食前のことば **合掌**

● 多くのいのちと、みなさまのおかげにより、
このごちそうをめぐまれました。

(同意) 深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。

食後のことば **合掌**

● 尊いおめぐみをおいしくいただき、
ますます御恩報謝につとめます。

(同意) おかげで、ごちそうさまでした。



国宝 鴻の間にて抹茶の接待を受けました



仲尾和歌山教区教務所長よりご祝辞をいただく



第1回 和歌山教区 日高組仏教壮年会念仏奉仕団 令和元年7月12日

子ども・若者 ご縁づくり

「手を合わせ、お念仏申す人になってもらいたい」
これが私たちの共通の願いです

日高組通信

☆行事報告

◎日高組仏教壮年会30周年記念行事

(本願寺念仏奉仕団参拝)

7月11日、12日の2日間、日高組仏教壮年会念仏奉仕団として本山での奉仕作業をおこないました。(1面写真・詳細6〜7面)

◎日高組キッズサンガ(子どものつどい)

7月27日、由良町吹井覚性寺で開催され、児童37名、各教化団体関係者46名が参加して世代を超えてお寺で楽しく過ごしました。(詳細5面)

◎門徒推進員養成連続研修会

第4回れんけん(連続研修会)が8月3日、御坊市の本願寺日高別院で、第5回れんけんが10月5日、日高町志賀の即生寺でそれぞれ開催され、研修を受けました。

◎第3ブロック門信徒総研修会

9月1日(日)紀南組担当により、田辺市の紀伊田辺シティプラザホテルにて開催、日高組で大型バス一台が配車され、組内から51名が参加しました。

◎実践運動僧侶研修会

9月28日、由良町衣奈の信行寺で僧侶研修会が開催され、組内僧侶12名が参加。昨年に引き続き、和歌山組西覚寺の島和夫住職より声明の研修を受けました。

◎第42回近畿地区仏教婦人会和歌山大会

10月23日、和歌山県民文化会館にて和歌山教区担当で近畿地区仏教婦人会大会が開催され、組内から仏教婦人会会員37名が参加しました。



10月23日開催、近畿地区仏教婦人会和歌山大会

☆行事予定

◎日高組真宗法座・門徒推進員養成連続研修会(れんけん)

12月8日(日)、午後1時半から由良町衣奈の西教寺にて第25回日高組真宗法座を開催します。講師は大阪教区交野組浄行寺の義本弘導師、皆様方のお聴聞をお待ちしております。同時に第6回れんけん(研修)として行われますので、受講者の皆様はもれなくご参加いただきますようご案内します。

◎第2回組内会

12月21日、日高町小浦の円行寺で第2回組内会を開催予定。実践運動第3期の検証・評価第4期の計画などの素案づくり、次期役員選定などを行います。大変重要な会議となっておりますのでご寺院さまには万障繰り合わせご出席をお願いいたします。

お知らせ
得度

このたび、日高町円行寺衆徒の中井慶さんと由良町専福寺衆徒の菅原稀香さんが得度受式されました。今後のご活躍を期待いたします。

読者の声

※長雨に続き、きびしい暑さ。熱中症要注意。さわやかな秋の風を待ちかねる日々です。

※毎回読んでいますが、ペンを持つところまでは・・・

※「磬を鳴らすのはお勤めするときの合図」と教えてもらってからは、ただお供え物をする時は南無阿弥陀仏となえ、チンとひとつだけ鳴らすようにしています。これってまちがっていますか？

※紙面の文字が大きくなり、より読み易くなりました。

※法話「平成から令和へ」拝読させていただきました。大変勉強になりました。

※令和元年入梅遅くなり、いつまでもむし暑く湿気が続きますがご自重専一されますよう祈ります。82歳になってもいろいろ喜怒哀楽です。

ひかり編集委員会(広報部)では読者の皆さんからの投稿を募集しています。「法悦クイズ」には是非チャレンジしましょう。同時にご意見ご感想を添えていただければ幸いです。